はじめに「企画の趣旨」

渡辺 哲也（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 教育支援研究部・主任研究員）

＜企画の趣旨＞ インクルージョンの進展に伴い、障害のある学生が一般の大学に進学する機会も増えている。しかしながら、障害のある学生の受け入れのために、大学として支援体制を整えているところはまだ少ない。また、理系の学部においては、実験があったり、数学・情報処理・化学のように専門的用語・記号を使う教科書が多かったりと、受け入れには文系学部とは異なる課題がある。このシンポジウムでは、障害のある学生を指導した経験のある理系の先生方から、受け入れの経緯や支援策などを語って頂くとともに、日本学生支援機構からは障害学生修学支援ネットワーク事業を紹介して頂く。これらの経験談・情報を通じて、理系学部の教員の方々に、障害のある学生の受け入れに関する知識を深めて頂く。

本日は、このシンポジウムにお集まり頂きましてありがとうございます。

障害のある学生の支援というと、これまでは障害児教育講座のある教育学部などが中心となってシンポジウムなどが行われてきました。しかし、障害がある学生が必ずしも障害児教育講座に進むという訳ではありません。それぞれの興味・関心に従って学部を選んでほしい。この電子情報通信学会は理系の学会ですので、理系の学部における支援に焦点を置いております。

まず背景として、１つはまだ障害のある学生の受け入れ支援対策を大学として整えているところは多くはないということと、もう１つ、理系ということに関して言えば、文字だけを扱う文系の学部 - 年表とかあるいは地図などがあるのでそう言うと語弊がありますが - 、それに比べて、取り扱うのが大変な実験、あるいは専門的な記号などがある理系学部でどうやって対応をしているのかといったところを、実際に支援をしてきた先生方からお話を頂こうと考えました。

今日お話を頂く方は、必ずしも大学で障害児教育とかを学んできたという訳ではありません。しかし、実際に障害のある学生さんが来られたときに一生懸命対応してこられた。更に、その障害者支援というものを研究テーマの１つにまでされてきた先生方です。そういった先生方のお話を聞いて頂くことで、障害のある学生さんが研究室に入りたいと言ったときに，それは無理だと頭ごなしに考えるのではなく、なんとかやれるんだと自信をもって頂ければというのが一番の思いとしてありました。

今日は５人の先生方にお話をお願いしています。４人の先生方は，視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、そして発達障害というそれぞれの障害のある学生さんを受け入れてきました。その先生方に、受け入れの経緯 - 受け入れる前、そして受け入れてから大学とどう交渉してきたかとか、そういったことも含めた実際の出来事をお話して頂きます。そして最後の５番目に、日本学生支援機構の谷川先生から、今、この機構で進めている障害のある学生の修学支援ネットワーク事業というもの、その支援内容、あるいは支援メニューなどを紹介して頂く予定になっております。